

かきおの社協

平成23年2月1日発行 第43号 柿生地区社会福祉協議会 発行人 森 政吉
編集人 永井洋志
川崎市麻生区万福寺1-2-2 (新百合21ビル1階) 電話:044(952)5500 FAX:044(952)1424

～みんなで進める地域の福祉～



●ご協力をお願い● 賛助会員を募集しています

2月1日～2月28日
麻生区社会福祉協議会では、
賛助会員を募集します!!

麻生区社会福祉協議会では、2月1日から賛助会員を募集しています。
福祉活動への支援は通常、共同募金配分金や公費補助金のほか、団体会員の会費等を財源として運営されていますが、さらなる福祉事業の充実を図るために、これらとは別に皆さまからの賛助会費の協力が、地域福祉活動を支える財源として重要な部分を占めています。
これらの趣旨にご賛同いただき、一人でも多くの皆さまに賛助会員としてご協力いただき地域福祉活動を支援され、これからの福祉のまちづくりにご参加くださいますようお願い申し上げます。

●広報関係事業●

広報誌「かきおの社協」
3回/年発行 ほか



●高齢者福祉事業●

敬老祝い品配布、高齢者疑似
体験、研修会開催



●福祉団体育成●

各種助成金事業
(57団体 ※22年度実績)

- ・会食・配食・ミニデイサービス、ふれあいサロン、おしゃべり会を実施している団体
- ・ボランティア団体活動・当事者団体、老人クラブ、母親クラブなど

●青少年福祉関係事業●

区長と語ろう、各種研修会
開催、青少年ポピュラーミュージックフェスティバル協力



●子育て福祉事業●

食育講演会、小児救急について
など研修会開催、など



★賛助会費とは??

麻生区社会福祉協議会が募集し、柿生地区内で集まった賛助会費の7割が、柿生地区社会福祉協議会への補助金として配分されます。
ご協力いただいた賛助会費は、小地域福祉活動の推進に活用されています

★賛助会費の金額 個人会員 1口 1,000円/年

申込み方法・受付 町会・自治会
又は麻生区社会福祉協議会事務局
麻生区社会福祉協議会
(麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル1階)
Tel 952-5500 Fax 952-1424

●障がい児者福祉事業●

ふれあい合唱コンサート開催、
福祉まつり出店、
研修会開催ほか



●その他●

小地域福祉活動推進、
福祉まつり参加、いこいの家
運営 など



柿生地区社会福祉協議会の事業

来て見てつなげよう心の輪
第21回 あさお福祉まつり ご報告

11月21日、日ごろ地域福祉活動に携わる団体やボランティアグループ、各福祉施設など関係団体が一堂に集う、第21回あさお福祉まつりが麻生区役所・麻生市民館周辺で行われました。このまつりは一般の市民参加者と交流し福祉への理解を深めていただくという麻生区協働推進のおまつりです。自然に福祉に親しめ、また知識が得られるとあって毎年関心は高まってまいりました。ホールでは第11回麻生区社会福祉大会の式典を行い、そのあと子供向け映画(トイ・ストーリー3)上映会でしたので、大勢の子どもたちや家族で賑わいました。

うどんそばの看板を持って呼び込みにかがる役員



福祉はがき・鉢花販売、(にぎわいテント村)



みんなで歌や打楽器演奏(区役所ロビー)



装着し、高齢者疑似体験に出発(市民館大会議室)



子どもたちに人気、金魚すくいヨウヨウつり



みんなで一緒に芋掘りを楽しもう!



主催 柿生地区社会福祉協議会 障がい児者福祉委員会

10月16日(土)志村農園にて恒例の芋掘りが開催されました。

お天気も良く汗ばむ程の陽気の中、さわやか会 柿生学園 ジョイフレンズ北部地域療育センター 障がい児者委員会等 40名程の方々に参加されました。

今年の芋の出来は、農園の志村さんによると干ばつで大きさが今一つとのこと、いつもは咲かないさつまいもの花がいくつも見られたそうです。(子孫を残す為か?)!けれども9月からは雨が降り持ち直したようで、たくさんの芋を皆さん楽しく掘り出していました。芋掘りの後、落花生も収穫させていただきました。

大人も子供も、「掘ること」に夢中で、広々とした畑の中で、土に触れる、季節を感じる、自然を感じることでできる時間でした。

事前の準備(芋の蔓刈り)をもくもくとされる畑の持ち主の志村さんご夫婦の表情がおおらかでたくましく、印象的でした。



いつもは見れないいもの花



食育講演会

秋の味覚「サンマを焼いて食べよう」

主催 柿生地区社会福祉協議会 青少年福祉委員会



平成22年11月7日、秋晴れのお天気に恵まれた岡上こども文化センターで、小学校低学年の親子を対象にした「野外で火をおこし、サンマを焼いて食べよう」が開催されました。

総勢41名の盛況の中、冒頭、管理栄養士の室賀伊都子さんから、サンマはEPA・DHAなど栄養が豊富なので沢山食べて欲しいというお話がありました。

つぎに岡上の農家の山田美智子さんより、こんにゃくいもを見せていただいたり、柿のビタミンは、みかんの2倍あること、柿の白いブルームはとらないままにすると日持ちすることなどを伺いました。

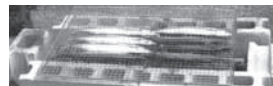
そのあと、野外に出て、親子それぞれ、炭の火おこしに悪戦苦闘しました。

やがて煙が立ち上り、香ばしい匂いで満たされ美味しそうなサンマが焼けました。

中には火加減が難しく表面が黒こげのサンマもできましたが、中身は香ばしく油のつっておいしそうでした。

室内に入ってサンマを囲み、美味しく食べました。またこの日は岡上産の野菜がいっぱい入った豚汁をいただきながらそれぞれ楽しい会話がはずみました。

子供達からの声が聞こえました。「美味しかった。又来年もやりたい!!」



火おこしに悪戦苦闘

食育講演会

食べることは生きること
元気になる食事を今日から始めませんか！

主催 柿生地区社会福祉協議会 地域子育て委員会

12月3日前夜からの豪雨、朝ようやく小降りになり開始の10時頃には雨も上がった。会場は市民館調理室(写真上)で行った。参加者は小さなお子さんを持つた母親18名であった。乳幼児を子育て委員会の方々が預かり遊ばせながら保育をしており、母親達が講演や調理実習など自由に活動できる時間を確保していた。

講師は管理栄養士の室賀先生で、『朝ごはんは一日の中で一番大切な食事、朝の忙しい時間の中でも必ず取るようにしましょう。食事には主食(ごはん・パン・麺類) 主菜(肉・魚・卵・大豆等) 副菜(野菜・きのこ・海そう等) 汁物・果物があり、栄養のバランスを整えて作り、次の食事にどのような物を作ればよいか考えましょう。『手早く』『バランスよく』『美味しく』『安心』で薄味なご飯を作ることを目指しましょう』と話された。

調理実習に入り、4つの調理台に4〜5人が分かれ準備された材料に取り組み、日ごろの料理の手際良さを発揮し「豚肉のスープかけごはん」「大根とベーコンの温サラダ」「わかめとネギの炒め物」の



3種類を40分程度で作り上げた。別の部屋で保育されていた乳幼児(写真下)が母親のもとに集まり試食会が始まった。わが子を抱きながら作りたての料理と一緒に食べながら、「こんなに簡単に来るのであれば、家でも作ってみたい」と言う声があちこちのグループより上がった。
最後に先生より、季節の食材を中心に野菜たっぷりな薄味の料理を作り、添加物の多い加工品や惣菜を買って家でも食べることを控え、一日一度は家族そろって「温かいおうちごはんを食べましょう」と、締めくくられた。育児で奮闘している母親が講演会で知り得た仲間との助け合い、話し相手が出来たことも、この会が長年続けられ参加者が年々多くなっている大きな要因であると考えさせられた。
(4面に2種類のレシピが掲載してあります)

里親について学ぶ
里親さんの体験談を
聞いてみよう！

主催 麻生東地区社会福祉協議会
青少年福祉部会
柿生地区社会福祉協議会
青少年福祉委員会

12月6日(月)新百合台ウエンティワン第2会議室にて、両地区青少年福祉委員の他、民生委員児童委員の方々にも参加していただき、38名で「里親」についての勉強会を開催しました。

はじめに川崎市中央児童相談所の松田氏から里親制度の概要と、社会的擁護の現状、里親になるにはという3つの事をお話いただきました。川崎市内における里親登録数は平成21年3月末日現在で90組あり、昨年から登録件数は増えているようです。麻生区内では20組の里親が登録されており、また里親制度よりも児童数を多く受入れることができる児童ファミリーグループホームは市内にあるホームのうち麻生区に3つあります。

つぎに、川崎市長から認定された里親たちが中心となり活動している「川崎あゆみの会」で実際に里親として活動されている高橋氏から、里親になったきっかけや、里親として活動する中でのエピソードなどを伺いました。

高橋氏は15年前、市政だよりを見て「自分でも何かできることはないだろうか」と思い応募し、研修などを受けてから里親としての活動を始めたそうです。里親制度として児童を委託される期間は、一人につき通常数日から10数年に及びこともある中、高橋氏は短くて6カ月、

長くて3年間養育されてきたそうです。今回の勉強会では、里親制度についてと川崎市内での現状を知りながら、里親としての体験談も交えて活動内容を知ることができました。聞いたことがあっても分からないことの多い「里親制度」について学ぶ機会を設けることで、一人でも多くの方に制度を知り、「里親」について考えるきっかけとなる勉強会でした。

里親制度とは？

要保護児童(親の病気、家出、離婚などさまざまな事情により生んでくれた親のもとで生活することができないなど、公的な保護を必要とする子どもたち)の生活の場の一つとして「里親」制度があります。
里親は、要保護児童を自らの家庭へ迎え入れ、ある期間、都道府県からの委託を受けて養育し、子どもの成長をめざしています。

「里親制度の運営」については、「里親制度は、家庭での養育が欠ける児童等に、その人格の完全かつ調和のとれた発達のための温かい愛情と正しい理解をもった家庭を与えることにより、愛着関係の形成など児童の健全な育成を図るものであること」と記されています。
児童相談所が里親へ子どもを委託し、里親は児童相談所との連携をもとに子どもを養育します。委託期間は、数日間、数週間という短期もあれば10数年と長期に及びこともあります。
今日、「虐待」等の問題が深刻化しており、受入先となる里親家庭の需要はますます高まっています。

麻生青年教室とは？

「麻生青年教室」は、川崎市麻生市民館（麻生区役所生涯学習支援課）の主催事業として開催されています。「障がいのある人が、社会参加に必要な基礎的な知識・技術の向上を図り、地域社会でのバスハイイクや調理、レクリエーションなどの余暇活動の体験や、交流を通して、共に生きる地域社会の実現をめざす」とを目的とした障がい者社会参加活動を、社会教育事業（『学校教育』）に対して、社会において広く行われる教育事業、という意味として展開しています。

現在、33名が参加しており、市民館職員や地域のボランティアと一緒に定期的な活動を展開しています。

地域の ささえあい..

麻生青年教室の活動
 活動：原則、毎月第3日曜日（概ね午前10時～午後3時）
 対象：知的障がいのある方で、麻生市民館まで一人で行ける方

地域との関わりの中で

麻生青年教室の運営は、一般の市民ボランティアを募り、市民館職員と市民による協働の形態で事業を展開しています。具体的には、毎月1回、第1土曜日の午後3時～5時にスタッフミーティングを行い、毎月の企画運営について検討し



問合せ先：麻生市民館
 TEL 951-1300

- 平成22年度の活動
- 5月：開講式（マジックショー）
 - 6月：ボーリングと料理
 - 7月：ゲーム大会
 - 9月：カラオケと料理
 - 10月：富士五湖へのバスハイイク
 - 11月：黒川野外活動センターでのバーベキュー
 - 12月：食事会とインドネシア舞踊
 - 1月：おもちゃつき
 - 2月：室内ゲーム
 - 3月：バスハイイク

食育レシピ

<豚粥>～豚のスープかけご飯～

- <材料：2人分>
- 豚肉ももスライス・・・100g
 - 生姜薄切り・・・2～3枚
 - 長葱青い部分・・・10cm位
 - 胡椒・・・少々
 - 水・・・500cc
 - 細ネギ（小口切り）・・・大1
 - ごはん・・・250g
 - 青菜（小松菜/ホウレン草/水菜など）・・・40g
 - 醤油・・・1人小さじ1～1.5が目安
 - わさび・・・適宜

<作り方>

- ①豚肉を細切りにする。
- ②水に生姜と葱の青い部分と胡椒を加え、沸騰したら一度火を止めて豚肉を加え、ゆでながら丁寧にあくを取る。

<わかめとネギの炒め物>

- <材料：2人分>
- わかめ（塩蔵を戻したもの）・・・100g
 - 長葱（白い部分）・・・1/3本
 - ごま油 醤油・・・各小1

<作り方>

- ①塩蔵わかめは水にもどして塩を十分にぬいて、一口大に切る。
- ②葱は白い部分を縦半分にして斜め薄切りし、ごま油で焼き色がつくまで炒める。
- ③わかめを加えてさらに炒め、わかめの色が緑がかったら火を止め、醤油を混ぜ合わせる。

- ③温かいごはんにスープごとかけ、ゆでた青菜をのせ、小口切りした葱とわさびを薬味に、醤油で味を調べていただく。

障がい児者福祉委員会

ふれあい合唱コンサート

障がいのある人もない人も、ともに聴きともに歌えるコンサートです。

●日時 平成23年3月9日（水）午後1時30分

●場所 麻生市民館 大ホール

♪入場無料

青少年ボランティアミュージックフェスティバル

バンド・ダンスなど行う青少年達が活動をする場を広げるため参加者が一丸となり、主体的に作り上げていくイベントです。

●日時 平成23年3月26日（土）午後

●場所 新百合トウエンティワン 多目的ホール

♪入場無料

こんな事を やります



編集後記

「就活」「婚活」という略語をよく耳にするようになりました。厳しい世相を反映して、今年の「書き初め」は、就職活動の履歴書を書いたのが最初だったという話も聞きます。

そんな中、「就活」「婚活」に関心の高い女子大学生と話をする機会に恵まれました。「婚活」特に夫にしたい理想像を六人がそれぞれに語ってくれました。

「理想は、イケメンのイクメン」「会社のヒーローより家庭のヒーローになれる男性」「死ぬまで私を笑わせてくれる人」、最後に、これぞ正夢であってほしいと願ったのは、「子供九人生んで野球のチームをつくりたい。」という夢でした。人口減に苦しむ日本を救ってほしいと願わずにはいられません。

ともあれ、輝く瞳に囲まれ、ぱつと花が咲いたような、二足早い春をいただきました。

この広報誌は柿生地区社協管内の三禅寺・王禅寺西・王禅寺東・白山・虹ヶ丘・上麻生・下麻生・早野・岡上・万福寺・古沢・五力田・片平・白鳥・栗平・栗木・栗木台・黒川・南黒川・はるの野にお住まいの皆様に配布されています。